

平成25年（2013年）度

滋賀県家畜保健衛生所業務概要

2014

滋賀県家畜保健衛生所

本所

〒523-0813
滋賀県近江八幡市西本郷町226-1
TEL 0748-37-7511（代）
FAX 0748-37-4821
E-mail:ge37@pref.shiga.lg.jp

北西部支所

〒520-1611
滋賀県高島市今津町弘川249-1
TEL 0740-22-2145（代）
FAX 0740-22-6681

目 次

I	家畜保健衛生所の概要	
1	沿革	1
2	管轄	2
3	位置および交通	2
4	組織および事務分掌	3
5	職員名簿	4
6	施設の概要	5
1)	用地および建物	5
2)	建物配置図	6
7	主要物品整備状況	7
1)	主要備品	7
2)	自動車管理状況	8
8	管内の概要	9
1)	地域の特徴	9
2)	畜産の概況	9
II	平成25年度事業実績	
1	家畜防疫に関する事業	11
1)	家畜伝染病予防事業	11
(1)	総括表	11
(2)	家畜伝染病等発生状況	12
(3)	精密検査	13
(4)	立入検査	20
(5)	証明書発行状況	22
(6)	輸出入検疫対象家畜検査状況	22
2)	自衛防疫・自主管理強化総合対策	23
(1)	地域家畜自衛防疫推進協議会	23
(2)	特定疾病損耗防止事業	23
2	家畜検査事業	24
1)	病性鑑定実績	24
(1)	精密病性鑑定結果	25
(2)	精密検査・調査実施状況	27
3	家畜衛生に関する事業	28
1)	牛海綿状脳症（BSE）検査・清浄化推進	28
2)	監視・危機管理体制整備対策	28
(1)	家畜伝染病防疫対応強化	28
(2)	家畜衛生関連情報の整備	29
(3)	まん延防止円滑化対策	30
(4)	病性鑑定ネットワークの構築	31

3)	生産性向上対策	31
(1)	慢性疾病等生産性を阻害する疾病の低減	31
4)	畜産物の安全性向上	31
(1)	生産衛生管理体制整備	31
(2)	鶏卵衛生管理体制整備	32
(3)	動物用医薬品危機管理対策	32
(4)	飼料安全性・品質改善対策	33
4	動物薬事	34
1)	申請・届出等の状況	34
(1)	市町別業者数	34
(2)	申請・届出の事務処理状況	35
2)	薬事監視強化事業	35
(1)	立入検査状況	35
5	獣医事	36
1)	届出状況	36
(1)	飼育動物診療施設	36
(2)	事務処理状況	36
2)	立入検査状況	36
6	家畜改良増殖事業	37
1)	家畜人工授精に関する業務	37
(1)	家畜人工授精師免許関係事務	37
(2)	家畜人工授精所開設等届出	37
III	参考資料	
1	学会・業績等の発表	39
2	講習会等受講状況	41
1)	家畜衛生講習会	41
2)	家畜衛生研修会	41
3)	動物用医薬品危機管理対策研修会	41
4)	中央畜産技術研修会	41
5)	その他	41
3	家畜衛生関係手数料	42
4	家畜飼養状況の概要	44

I 家畜保健衛生所の概要

I 家畜保健衛生所の概要

1 沿革

家畜保健衛生所法（昭和25年3月18日法律第12号）に基づき、滋賀県家畜保健衛生所条例（昭和25年10月3日滋賀県条例第60号、平成21年4月1日廃止）、滋賀県行政機関設置条例（平成21年1月23日滋賀県条例第1号）により設置。

- | | | |
|-------|-----|--|
| 昭和26年 | 4月 | 坂田郡春照村に湖北家畜保健衛生所を設置（管轄:長浜市、坂田郡、東浅井郡）
高島郡今津町に湖西家畜保健衛生所を設置（管轄:高島郡） |
| | 8月 | 甲賀郡水口町に甲賀家畜保健衛生所を設置（管轄：甲賀郡）
栗太郡治田村に湖南家畜保健衛生所を設置（管轄：栗太郡、野洲郡） |
| | 12月 | 彦根市に湖東家畜保健衛生所を設置（管轄：彦根市、犬上郡、愛知郡） |
| 昭和30年 | 9月 | 機構改革により、畜産奨励業務を併せて実施することとなる
蒲生郡北比都佐村の種畜場（現畜産技術振興センター）内に日野家畜保健衛生所を設置（管轄：近江八幡市、八日市市、蒲生郡、神崎郡）
大津市の県庁内に大津家畜保健衛生所を設置（管轄：大津市） |
| 昭和31年 | 5月 | 湖北家畜保健衛生所が春照村から長浜市勝町に移転 |
| 昭和32年 | 5月 | 日野家畜保健衛生所が近江八幡市に移転し、中部家畜保健衛生所と改称 |
| 昭和34年 | 12月 | 大津家畜保健衛生所が滋賀郡堅田町に移転し、滋賀家畜保健衛生所と改称 |
| 昭和36年 | 4月 | 伊香郡木之本町に伊香郡を管轄する湖北家畜保健衛生所木之本支所を設置 |
| 昭和38年 | 8月 | 長浜市小堀町に湖北家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和39年 | 2月 | 湖西家畜保健衛生所庁舎を新築 |
| 昭和40年 | 5月 | 栗太郡栗東町小柿に湖南家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和43年 | 4月 | 機構改革により、畜産奨励業務は県事務所に移行することとなる
甲賀と湖南の両家畜保健衛生所を統合し、甲賀郡水口町に湖南家畜保健衛生所を整備
湖東と中部の両家畜保健衛生所を統合し、近江八幡市西本郷町に湖東家畜保健衛生所を整備
湖北家畜保健衛生所木之本支所は本所に統合 |
| 昭和44年 | 3月 | 甲賀郡水口町名坂に湖南家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和45年 | 3月 | 近江八幡市西本郷町に湖東家畜保健衛生所を新築 |
| 昭和47年 | 3月 | 滋賀家畜保健衛生所を廃止し、湖南家畜保健衛生所に統合 |
| | 4月 | 機構改革により、畜産課内に病性鑑定係を設け、県庁別館に試験室を設置 |
| 昭和55年 | 3月 | 病性鑑定施設を湖東家畜保健衛生所敷地内に新築移転 |
| 昭和57年 | 4月 | 機構改革により、病性鑑定係は湖東家畜保健衛生所に組織替え |
| 平成6年 | 4月 | 畜産関係組織再編整備により、湖南、湖東、湖北、湖西の4家畜保健衛生所を廃止し、新たに県下全域を統括する滋賀県家畜保健衛生所を近江八幡市西本郷町（旧湖東家畜保健衛生所施設）に設置
併せて、滋賀県家畜保健衛生所内に家畜検査センターを設置して畜産物の品質、安全性検査の充実を図る |
| 平成12年 | 4月 | 「地方分権法」の施行に伴う県組織の改革により、グループ制が導入され、保健衛生と防疫の2グループを設置 |
| 平成17年 | 4月 | 緊急時の防疫対応を充実するため、畜産技術振興センター西部指導所を高島市、大津市、滋賀郡および湖北地域（米原市を除く）を管轄する家畜保健衛生所北西部支所に組織改編するとともに、畜産技術振興センターの技術指導業務を兼務することとなる |
| 平成22年 | 3月 | 家畜検査センター施設を新築 |
| | 8月 | 滋賀県家畜保健衛生所本所を改修 |
| 平成23年 | 1月 | 旧検査センターをBSE検査室、冷蔵庫室および資材倉庫に改修 |

2 管 轄

本所と北西部支所の管轄地域は以下のとおりとなっている。

家畜保健衛生所	農業農村振興事務所	管 轄 市 町
本 所	大津・南部 のうち	草津市、守山市、栗東市、野洲市
	甲 賀	甲賀市、湖南市
	東近江	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
	湖 東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
	湖 北のうち	米原市
北西部支所	大津・南部 のうち	大津市
	湖 北のうち	長浜市
	高 島	高島市

3 位置および交通

【本所】

近江八幡市西本郷町226番地の1 郵便番号 523-0813
電 話：(0748)37-7511 FAX：(0748)37-4821
交通：JR西日本 琵琶湖線（東海道本線）近江八幡駅下車 徒歩7分

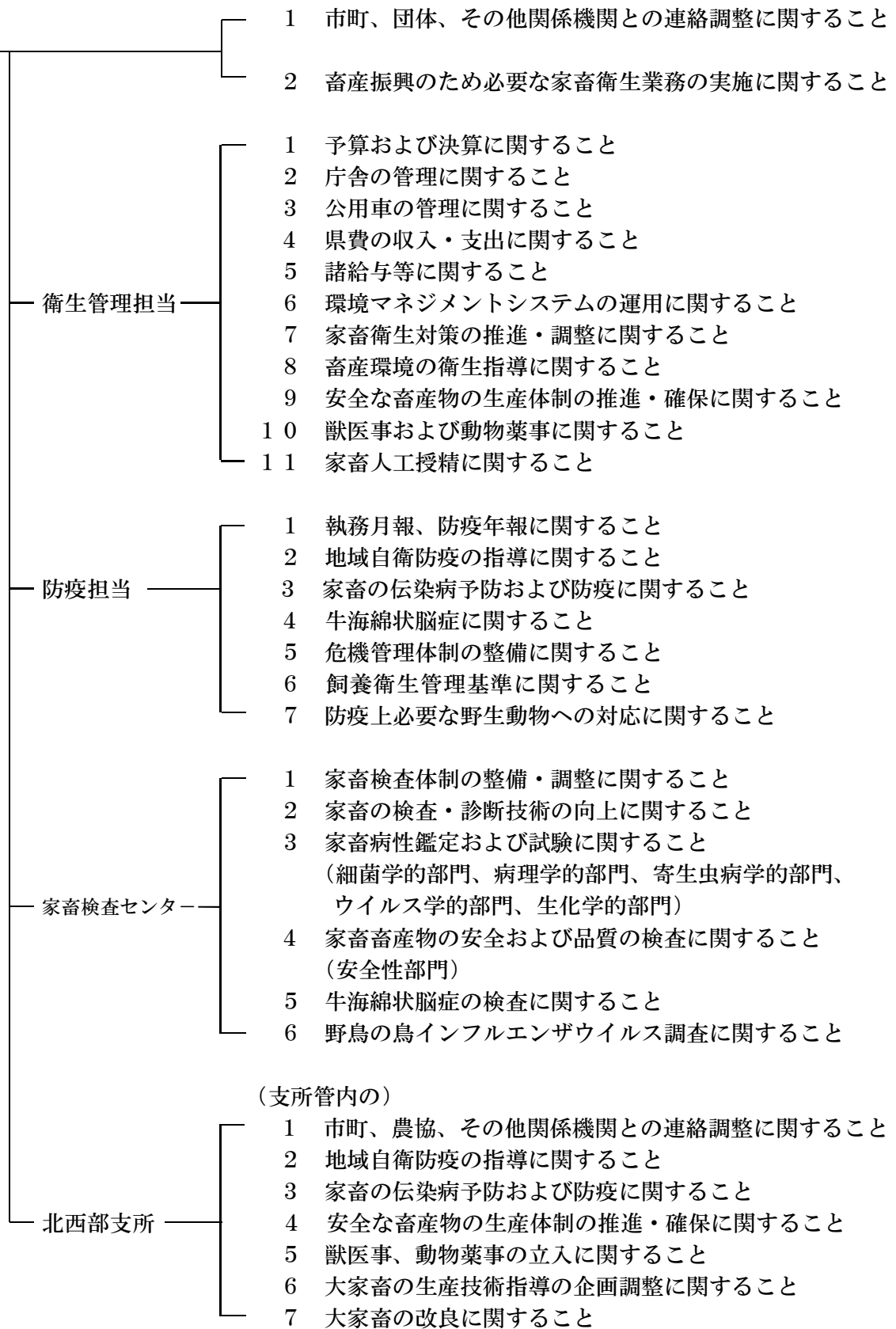
【北西部支所】

高島市今津町弘川249番地の1 郵便番号 520-1611
電 話：(0740)22-2145 FAX：(0740)22-6681
交通：JR西日本 湖西線近江今津駅下車 徒歩15分

4 組織および事務分掌

所 長

次 長



5 職員名簿

所 長	清水 信美	次 長	渡辺 千春
-----	-------	-----	-------

衛生管理担当

副 参 事(GL)	山路 泰介
主 査	藤田 啓子
主 査	森川 武司
主任技師	小森 雅子

防疫担当

副 参 事(GL)	橋本 久彦
副 主 幹	宮坂 光徳
副 主 幹	藤井 賢一
主 査	加藤 真由子
主 査	杉本 みのり
主 査	浅井 素子
主任技師	諸岡 剛俊

家畜検査センター

所 長	中西 幸司
副 主 幹	富澤 泰 (安全性、生化学的部門)
副 主 幹	平澤 康伸 (病理学、寄生虫病的部門)
主 査	三松 美智子 (細菌学的部門)
主任技師	内本 智子 (ウイルス学的部門)

北西部支所

支 所 長	村上 賢司
主 幹	布藤 雅之
主任技師	山中 美佳
主任技師	川本 友香
技 師	小畑 敦俊

6 施設の概要

1) 用地および建物

【本 所】

敷地面積 2,116.33 m²

建 物

本館	(鉄筋コンクリート造2階建)	369.22 m ²
家畜検査センター	(鉄筋コンクリート造2階建)	463.93 m ²
焼却炉棟		40.59 m ²
解剖室	(解剖室棟)	48.56 m ²
BSE 検査室	(解剖室棟)	49.16 m ²
冷蔵庫室(前室含む)	(倉庫棟)	71.30 m ²
資材倉庫書庫	(倉庫棟)	98.45 m ²
動物飼育室		18.00 m ²
上屋(1) S61		18.80 m ²
上屋(2) H22		22.40 m ²

計 8棟 1,200.41 m²

【北西部支所】

敷地面積 3,946.31 m²

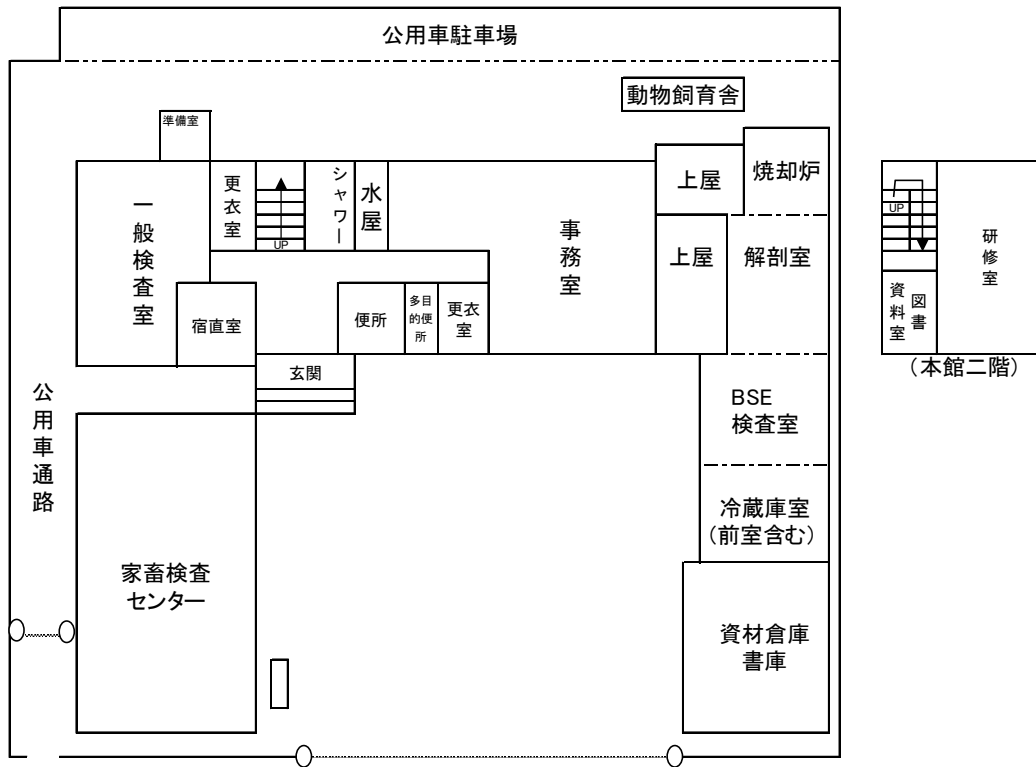
建 物

本館	(鉄筋コンクリート造平屋建)	180.00 m ²
別館	(鉄筋コンクリート造2階建)	348.94 m ²
書庫および解剖室	(補強コンクリートブロック平屋建)	43.77 m ²
車庫	(鉄骨折半平屋建)	33.63 m ²

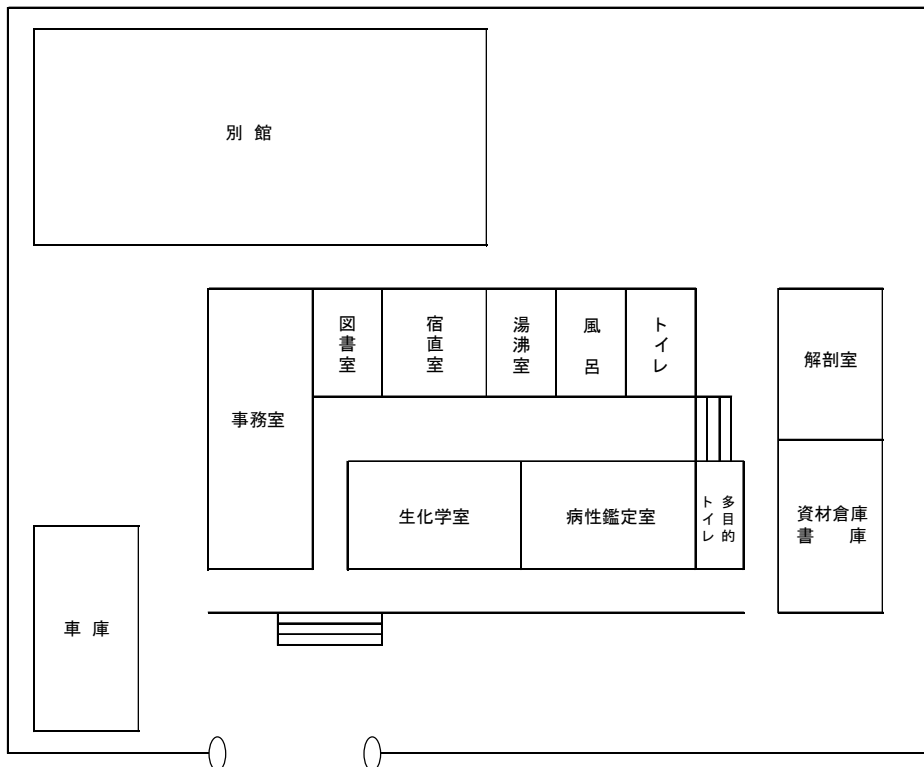
計 4棟 606.34 m²

2) 建物配置図

【本所】



【北西部支所】



7 主要物品整備状況

1) 主要備品

品名	規格・型式	数量	取得年月日	備考
自記分光光度計	330 型	1	S55. 3. 31	日立
ガスクロマトグラフ	GC-4CMPFE	1	S55. 3. 31	島津
顕微鏡(落射蛍光)光源装置	EFD 型	1	S59. 5. 24	ニコン
真空自動固定包埋装置	VRX-23	1	S60. 6. 18	サクラ精機
デンストメーター	HAD-501 型	1	S61. 10. 17	平沼
高速液体クロマトグラフ	LC-6A	1	S63. 3. 4	島津
超音波診断装置	SSD-500	1	H 3. 2. 4	富士平
嫌気性培養装置	EAN-140	1	H 4. 3. 27	タバイ
嫌気性培養槽	FA-9, J-45	1	H 4. 3. 27	平山
組織回転培養装置	HDR-12-T	1	H 6. 9. 29	ヒラサワ
排気式流し台	MAE-150	1	H 6. 11. 11	カヤガキ
ヨーネ病診断システム	SJ-109-51、 101-55	1	H 8. 12. 20	三光純薬
電気泳動装置	CHEF-DR II	1	H 9. 12. 25	バイオラッドラボラトリス
電気泳動画像解析システム	AGFA ARCUS2	1	H10. 11. 27	東洋紡
凍結切片作製装置	LEX-6100	1	H12. 8. 3	ヤマト
多項目血清検査機器	3500V	1	H13. 10. 5	富士
超低温フリーザー	MDF-493AT	1	H14. 1. 15	サンヨー
自動包埋装置	RE-12DM-2	1	H14. 1. 15	サクラ
マイクロプレートリーダー	405	1	H14. 1. 15	大日本製薬
石灰乳塗布用消毒器	ボラント E	1	H14. 1. 22	富士平
原子吸光光度計	A-1000	1	H14. 10. 30	日立
動物性廃棄物焼却炉	NS-30SD	1	H15. 3. 24	不二越
高速液体クロマトグラフ	L-2000	1	H15. 9. 10	日立
高速液体クロマトグラフ 蛍光検出器	L-2000	1	H16. 12. 9	日立
超低温フリーザー	MDF - 792AT	1	H17. 3. 18	サンヨー
リアルタイムPCRシステム	7500-1	1	H18. 3. 7	アプライトバイオシステムズ
落射蛍光顕微鏡および撮影装置	BX51	1	H20. 2. 27	オリンパス
ドラフトチャンバー	CBR-Vc21-FN	1	H22. 3. 19	島津
バイオハザード対策用 キャビネット	SCV-1307EC II AB3	2	H22. 3. 25	日立
プレハブ式冷蔵庫 VHB-SUS-BKN	UCL-P5	1	H22. 10. 19	三菱電機
ビーズ式多検体細胞破碎装置	MB901U (S)	1	H23. 9. 20	安井器械
分光分析装置(吸光度測定用マ イクロプレートリーダー)	51119250/M	1	H25. 9. 12	サーモフィシャー

取得金額 1,000,000 円以上

2) 自動車管理状況

【本所】

車種 (排気量)	登録番号	取得 年月日	配車 年月日	総走行キロ数 km
普通貨物自動車 1990cc	11 た 3757	H7. 2. 2	H7. 2. 2	17,953
小型貨物車 1290cc	400 せ 2181	H16. 6. 4	H16. 6. 4	77,455
小型貨物車 1780cc	400 せ 6676	H17. 7. 4	H17. 7. 4	31,927
小型貨物車 1490cc	400 そ 804	H18. 6. 19	H18. 6. 19	76,937
小型貨物車 1490cc	400 そ 4722	H19. 6. 8	H19. 6. 8	77,053
小型乗用車 1300cc	501 ち 6071	H22. 11. 20	H22. 11. 20	22,705

【北西部支所】

小型貨物自動車 (排気量)	登録番号	取得 年月日	配車 年月日	総走行キロ数 km
軽自動車乗用 650cc	50 と 4026	H9. 6. 13	H17. 11. 2	98,028
小型貨物車 1490cc	400 そ 7985	H20. 6. 2	H20. 6. 2	84,704

8 管内の概要

1) 地域の特徴

滋賀県は日本列島のほぼ中心に位置し、東南は三重県、東は岐阜県、西は京都府、北部を福井県に接し、近畿地域の北端部に当たる。県土中央に我が国最大の淡水湖である琵琶湖が横たわり、全面積（4,017 km²）の約1/6を占めている。

本県の気候は、近江盆地を形成し、琵琶湖の影響を受けて温和なものになっており、全体としておおむね内陸的な特徴があるものの、県南部は瀬戸内型、北西部は北陸型、東北部は東海型気候の影響を受け、地域的变化に富んでいる。このため、北西部は豪雪に見舞われる年があり、南部には干ばつに備えた溜池も多い。

琵琶湖に由来する「近つ淡海（あわうみ）」近江の国は、古くから農耕文化が発達するとともに、我が国の東西、南北を結ぶ交通の要衝として、主要な街道が走っていた。現在も、物資輸送の大動脈である幹線道路や鉄道が通じ、交通網の要となっている。また、全国でも数少ない人口増加県の1つであり、京阪神のベッドタウンとして開発が進み、県南部、東部を中心に農業地帯の都市化、混住化が進行している。

本県農業は、古来から稲作が中心で、全耕地面積53,300haのうち水田が92.1%となっている（平成22年耕地面積調査）。農家戸数は36,017戸で、うち主業農家は6.1%であり、また基幹的農業従事者は農業就業人口29,492人の34.6%となっている（2010年農業センサス）。県の農業産出額は665億円であり、畜産は107億円で16.1%を占め、米の63.9%（425億円）に次ぎ、第2位となっている（平成24年生産農業所得統計）。

2) 畜産の概況

平成26年2月1日現在の飼養戸数・頭羽数は、乳用牛68戸3,536頭、肉用牛114戸17,710頭、豚10戸8,213頭、採卵鶏45戸418,118羽、肉用鶏10戸75,650羽である。飼養戸数は、年々、漸減しており、就業者の高齢化と後継者不足に加え、畜産物の消費低迷、飼料価格高騰等から、いずれの畜種においても取り巻く環境は厳しいものがある。

大家畜は、1戸当たり飼養頭数が、乳用牛52.0頭、肉用牛155.4頭と大規模化している。また、豚、採卵鶏、肉用鶏では、経営規模は小さいものの地場消費と結びついた堅実な経営が見られる。

乳用牛

本県の酪農は、京阪神の大消費地を控え、都市近郊の生乳生産地域として主業自立経営が多く、稲作との複合経営が主体となっている。飼養農家は東近江地域に最も多く、甲賀、湖西地域がこれに次ぐ。

飼料価格高騰による収益性の悪化や畜主の高齢化等により、前年に比べ、飼養戸数は3戸減少し、飼養頭数は82頭減少した。

肉用牛

本県の肉用牛は、肥育経営が主体であり、東近江地域を中心に営まれている。特に和牛は、産地から素牛を導入し、高度な肥育技術で高品質な肉牛に仕上げるのが特徴で、「近江牛」の銘柄で全国的にも知られており、さらなるブランド力の向上に農家および関係機関が積極的に取り組んでいる。東近江地域では、和牛の繁殖から肥育までの一貫経営が徐々に拡大している。また、マカオ、シンガポール、タイに向けた輸出が行われている。

前年に比べ、飼養戸数は5戸増加し、飼養頭数は和牛肥育牛で220頭の減少、繁殖牛では25頭（哺育育成牛含む）増加した。1戸当たりの飼養頭数は155.4頭であり、全国のトップレベルにある。

豚

本県の養豚は、水稻との複合経営が主体となっており、東近江地域を中心として繁殖・肥育一貫経営を展開している。肥育専門の経営はわずかで規模も小さい。畜主の高齢化、周辺の都市化により飼養戸数は減少傾向であるが、食品製造副産物を飼料に用いた経営体ではさらなる規模拡大が進められている。

前年に比べ、飼養戸数は1戸増加し、飼養頭数は728頭増加した。1戸当たり飼養頭数は821.3頭となっている。

採卵鶏

全国的に見て本県の経営規模は小さく、水稻との複合経営が中心となっているが、地場消費と結びついて有利な販売を行う経営が多い。飼養農家の所在は東近江地域が中心となっている。

前年に比べ、100羽以上の飼養戸数は4戸減少し、飼養羽数は46,378羽減少した。

肉用鶏

小規模農家が多く、東近江、甲賀、湖東地域を中心に食鶏販売と結びついた経営を行っている農家が多い。滋賀県畜産技術振興センターで開発された特産鶏「近江しゃも」は需要が固定してきており、販路の拡大・安定を模索している。

前年に比べ、100羽以上の飼養戸数は増減なく、飼養羽数は40,346羽減少した。

馬

湖南地域の栗東市には日本中央競馬会（JRA）のトレーニングセンターがあり、常時2,000頭前後の競走馬が繋養されている。甲賀、東近江地域を含めた周辺地域には牧場が散在し、これらを含め総数は3,382頭であった。

蜜蜂

本県には業として転飼養蜂を営む者は少なく、レンゲ、トチ、その他雑蜜を対象に県内で移動または定置採蜜する養蜂家と、ハウス果菜や果樹の交配用に飼育する農家など75戸、1,336群が飼育されている。

Ⅱ 平成25年度 事業実績

Ⅱ 平成25年度事業実績

1 家畜防疫に関する事業

家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号、以下「法」という。）に基づく検査等を実施するとともに、自衛防疫組織による予防接種や事業の推進を指導するなど、家畜伝染性疾病の発生の未然防止に重点をおいた事前対応型の防疫体制の維持に努めた。

1) 家畜伝染病予防事業

家畜伝染病等の発生予防ならびにまん延防止のための検査を次のとおり実施した。

(1) 総括表

区分	病名	対象家畜	実施頭羽群数	
			実頭数	延頭数
精	牛海綿状脳症	牛	205	205
	牛ブルセラ病	〃	1,195	1,196
	牛ヨーネ病	〃	2,141	2,141
密	牛流行熱	〃	48	194
	イバラキ病	〃	48	194
	アカバネ病	〃	48	194
検	チュウザン病	〃	48	194
	アイノウイルス感染症	〃	48	194
	牛白血病	〃	2,165	2,165
査	牛ウイルス性下痢・粘膜病	〃	159	159
	牛ロタウイルス病	〃	4	4
	牛伝染性鼻気管炎	〃	6	6
	イバラキ病	〃	6	6
	牛RSウイルス病	〃	4	4
	牛サルモネラ症	〃	16	16
	馬伝染性貧血	馬	4,163	4,163
	豚コレラ	豚	165	165
	オーエスキー病	〃	976	976
	豚繁殖・呼吸障害症候群	〃	338	338
	豚インフルエンザ	〃	6	6
	高病原性鳥インフルエンザ(抗体)	鶏	940	940
	高病原性鳥インフルエンザ(ウイルス分離)	〃	480	480
ひな白痢(種鶏)	〃	160	160	
マイコプラズマ病(MG)(種鶏)	〃	160	160	
マイコプラズマ病(MS)(種鶏)	〃	160	160	
ニューカッスル病(種鶏)	〃	42	42	
ニューカッスル病	〃	470	470	
高病原性鳥インフルエンザ(簡易検査)	〃	3	3	
マレック病	〃	5	5	
高病原性鳥インフルエンザ	あひる	20	20	
ニューカッスル病	〃	20	20	
腐蛆病	蜜蜂	672	672	
アカリダニ感染症	〃	2	2	
伝達性海綿状脳症	緬羊・山羊	15	15	

区分	病名	対象家畜	実施頭羽群数	
			実頭数	延頭数
臨床検査	牛伝染性疾病	牛	42,842	42,842
	豚伝染性疾病	豚	16,644	16,644
	鶏伝染性疾病	鶏	463,829	463,829
	緬羊・山羊伝染性疾病	山羊・緬羊	109	109
	あひる伝染性疾病	あひる	4,900	4,900
	蜜蜂伝染性疾病	蜜蜂	478	478
	馬伝染性疾病	馬	608	608

(2) 家畜伝染病等発生状況

①家畜伝染病 法第2条第1項の規定による疾病 発生なし

②家畜伝染性疾病 法第4条第1項に規定による届出義務のある疾病

病名	家畜の種類	発生または届出年月日	発生頭羽群数
牛白血病	牛	平成25年 4月18日	1
牛白血病	牛	平成25年 4月18日	1
牛白血病	牛	平成25年 6月 1日	1
牛白血病	牛	平成25年 6月11日	1
牛白血病	牛	平成25年 6月26日	1
ロイコチトゾーン症	鶏	平成25年 9月 9日	2
牛白血病	牛	平成25年 9月13日	1
レプトスピラ症	犬	平成25年 9月23日	1
レプトスピラ症	犬	平成25年 9月27日	1
牛白血病	牛	平成25年10月 2日	1
牛白血病	牛	平成25年10月18日	1
牛白血病	牛	平成25年10月25日	1
牛白血病	牛	平成25年11月 2日	1
マレック病	鶏	平成25年11月11日	5
レプトスピラ症	犬	平成25年12月17日	1
アカリダニ症	蜜蜂	平成26年 1月28日	1
アカリダニ症	蜜蜂	平成26年 1月28日	1
牛白血病	牛	平成26年 2月24日	1

(3) 精密検査

① 牛海綿状脳症検査

牛海綿状脳症対策特別措置法に基づき、牧場等において発生した24カ月齢以上の死亡牛について、検査を実施した。

市町名	検査頭数			検査結果		
	乳用牛	肉用牛	計	患畜	疑似患畜	健康
大津市	1	2	3			3
彦根市	4		4			4
長浜市	3		3			3
近江八幡市	29	22	51			51
甲賀市	27	1	28			28
湖南市		2	2			2
高島市	33	10	43			43
東近江市	8	13	21			21
米原市	4		4			4
日野町	10	10	20			20
竜王町		14	14			14
愛荘町	4	1	5			5
豊郷町	1	1	2			2
甲良町		3	3			3
多賀町	2		2			2
合計	126	79	205	0	0	205

② 牛のブルセラ病検査

法第5条により、県下の乳用牛および肉用牛の繁殖牛(種雄牛を含む)を対象に実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			患畜	疑似患畜	健康
大津市	2	36			36
〃		(1)			(1)
彦根市	2	55			55
甲賀市	3	197			197
高島市	4	121			121
東近江市	21	612			612
米原市	1	31			31
愛荘町	3	75			75
豊郷町	1	24			24
多賀町	1	44			44
合計	38	1,195	0	0	1,195

注：()は再検査頭数

③牛のヨーネ病検査成績

a. 法第5条により、県下の乳用牛および肉用牛の繁殖牛を対象に実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			患畜	疑似患畜	健康
大津市	5	42			42
彦根市	2	55			55
長浜市	1	10			10
甲賀市	5	238			238
高島市	5	143			143
東近江市	27	896			896
米原市	2	35			35
愛荘町	3	75			75
豊郷町	1	24			24
多賀町	1	44			44
合計	52	1,562	0	0	1,562

b. まん延防止のため、法第51条および第31条により、移動牛、ヨーネ病発生農家の飼育牛を対象に実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			患畜	疑似患畜	健康
大津市	1	1			1
長浜市	1	3			3
近江八幡市	4	10			10
甲賀市	2	175			175
高島市	5	312			312
日野町	2	78			78
合計	15	579	0	0	579

④牛流行熱、イバラキ病、アカバネ病、チュウザン病およびアイノウイルス感染症の発生予察検査
法第5条により、牛流行熱、イバラキ病、アカバネ病、チュウザン病およびアイノウイルス感染症の発生予察のため、ワクチン未接種の未越夏牛の抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果				
			牛流行熱	イバラキ病	アカバネ病	チュウザン病	アイノウイルス感染症
彦根市	1	3	0	0	0	0	0
長浜市	1	1	0	0	0	0	0
近江八幡市	1	2	0	0	0	0	0
甲賀市	3	15	0	0	0	0	0
高島市	4	14	0	0	0	0	0
東近江市	1	4	0	0	0	0	0
日野町	1	7	0	0	0	0	0
豊郷町	1	2	0	0	0	0	0
合計	13	48	0	0	0	0	0

⑤牛白血病検査

法第51条により、県下で飼育されている牛を対象に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
大津市	4	42	2	40	4.8
彦根市	2	55		55	0
長浜市	3	52	9	43	17.3
近江八幡市	10	123	13	110	10.6
守山市	1	5		5	0
甲賀市	6	241	155	86	64.3
高島市	6	152	14	138	9.2
東近江市	28	997	150	847	15.1
米原市	2	70	40	30	57.1
日野町	4	234	8	226	3.4
竜王町	1	23	4	19	17.4
愛荘町	3	75	6	69	8.0
豊郷町	2	52	6	46	4.8
多賀町	1	44	30	14	68.2
合計	73	2,165	437	1,728	20.2

⑥牛ウイルス性下痢・粘膜病

法第51条により、県下で飼育されている牛を対象に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	3	13		13	0
高島市	2	18		18	0
東近江市	8	72		67	6.9
日野町	3	44	5	44	0
愛荘町	1	12		12	0
合計	17	159	5	154	3.1

⑦牛ロタウイルス病

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	3	4	2	0	50.0

⑧牛伝染性鼻気管炎

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	1	6	0	6	0

⑨イバラキ病

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	1	6	0	6	0

⑩牛RSウイルス病

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
高島市	1	4	4	0	100.0

⑪牛サルモネラ症

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
高島市	2	16	0	16	0

⑫馬伝染性貧血検査

法第5条により、県下に飼育されているすべての馬を対象に、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			患畜	疑似患畜	健康
大津市	5	18			18
長浜市	3	40			40
守山市	1	3			3
栗東市	6	3,291			3,291
甲賀市	14	626			626
野洲市	1	1			1
高島市	3	6			6
東近江市	7	144			144
米原市	1	2			2
日野町	3	20			20
竜王町	1	2			2
豊郷町	1	10			10
合計	46	4,163	0	0	4,163

⑬豚コレラ検査

法第51条により、県下に飼育されている豚を中心に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	3	106		106	0
高島市	1	17		17	0
東近江市	1	16		16	0
日野町	2	26		26	0
合計	7	165	0	165	0

⑭オーエスキー病検査

法第51条により、県下全域で県外導入豚を中心に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	3	756		756	0
高島市	1	169		169	0
東近江市	1	16		16	0
日野町	1	35		35	0
合計	6	976	0	976	0

⑮豚繁殖・呼吸障害症候群

法第51条により、県下に飼育されている豚を中心に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	3	248	168	80	67.7
高島市	1	16	14	2	87.5
東近江市	1	27		27	0
日野町	1	47	41	6	87.2
合計	6	338	223	115	66.0

⑯豚インフルエンザ

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果		
			陽性	陰性	陽性率(%)
近江八幡市	1	4	0	4	0

⑰高病原性鳥インフルエンザのモニタリング調査

- a. 法第5条により、甲賀市、大津市、米原市および東近江市の養鶏場を対象にモニタリング調査を実施した。

月	採材羽数	抗体検査結果		ウイルス分離検査結果	
		陽性	陰性	陽性	陰性
4	40		40		40
5	40		40		40
6	40		40		40
7	40		40		40
8	40		40		40
9	40		40		40
10	40		40		40
11	40		40		40
12	40		40		40
1	40		40		40
2	40		40		40
3	40		40		40
計	480	0	480	0	480

b. 高病原性鳥インフルエンザの強化モニタリング調査

法第51条により、100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果	
			陽性	陰性
大津市	5	50		50
長浜市	2	20		20
近江八幡市	5	50		50
草津市	2	20		20
守山市	1	10		10
栗東市	3	30		30
甲賀市	4	40		40
野洲市	1	10		10
湖南市	1	10		10
高島市	6	60		60
東近江市	7	70		70
米原市	3	30		30
日野町	2	20		20
竜王町	3	30		30
多賀町	1	10		10
合計	46	460	0	460

⑱ ひな白痢、マイコプラズマ病検査

法第5条により、県下に飼育されている種鶏を対象に、抗体検査を実施した。

項目 市町名	ひな白痢			マイコプラズマ病 (MG)			マイコプラズマ病 (MS)		
	陽性	疑陽性	陰性	陽性	疑陽性	陰性	陽性	疑陽性	陰性
日野町	0	0	160	53	38	69	67	12	81

⑲ ニューカッスル病検査

法第51条により、県下に飼育されている採卵鶏および肉用鶏を対象に、抗体検査を実施した。
(採卵鶏)

市町名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
大津市	4	50	95.3
長浜市	1	5	84.4
近江八幡市	5	50	63.1
草津市	2	10	0
守山市	1	5	18.4
栗東市	3	15	18.4
甲賀市	5	40	72.1
野洲市	1	5	21.1
湖南市	1	10	168.9
高島市	4	35	60.3
東近江市	7	70	89.9
米原市	4	45	123.0
竜王町	2	20	168.9
多賀町	1	10	128.0
合計	41	370	77.7

(肉用鶏)

市町名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
大津市	2	25	19.7
長浜市	1	5	13.9
守山市	1	5	9.2
甲賀市	1	30	26.0
高島市	2	15	35.1
日野町	1	10	34.6
竜王町	1	10	78.8
合 計	9	100	29.0

(種鶏)

市町名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
日野町	1	42	574.7

⑳高病原性鳥インフルエンザ（簡易検査）

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査羽数	検査結果		
			陽性	疑陽性	陰性
近江八幡市	1	3	0	0	3

㉑マレック病

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査羽数	検査結果		
			陽性	疑陽性	陰性
近江八幡市	1	5	5	0	0

㉒高病原性鳥インフルエンザの強化モニタリング調査（あひる）

法第51条により、100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査羽数	抗体検査結果	
			陽性	陰性
甲賀市	1	10		10
高島市	1	10		10
合 計	2	20	0	20

㉓ニューカッスル病検査（あひる）

法第51条により、100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
甲賀市	1	10	44.2
高島市	1	10	2.5
合 計	2	20	27.4

②④腐蛆病検査

法第51条により、立入検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査群数	検査結果		
			陽性	疑陽性	陰性
大津市	1	600			600
彦根市	1	3			3
長浜市	1	5			5
高島市	1	64			64
合計	4	672	0	0	672

②⑤アカリダニ検査

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査群数	検査結果		
			陽性	疑陽性	陰性
高島市	2	2	2	0	0

②⑥伝達性海綿状脳症（綿羊・山羊）

法第51条により、検査を実施した。

市町名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			陽性	疑陽性	陰性
大津市	1	1			1
草津市	1	1			1
甲賀市	1	4			4
日野町	2	9			9
合計	5	15	0	0	15

(4) 立入検査

法第51条により、伝染性疾患の立入検査を実施し、各疾患の早期発見に努め、防疫の徹底を図った。

①牛の伝染性疾患検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
牛伝染性海綿状脳症	1, 847			1, 847
口蹄疫	14, 890			14, 890
ヨーネ病	5, 174			5, 174
アカバネ病	826			826
牛ウイルス性下痢・粘膜病	3, 986			3, 986
牛伝染性鼻気管炎	5, 708			5, 708
イバラキ病	897			897
破傷風	650			650
気腫疽	1, 451			1, 451
牛サルモネラ症	3, 909			3, 909
ネオスポラ症	1, 522			1, 522
牛白血病	1, 357			1, 357
牛RSウイルス病	21	5		21
牛ロタウイルス病	604			604
合 計	42, 842	5	0	42, 842

②豚の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
豚コレラ	3, 9 5 8			3, 9 5 8
豚口蹄疫	3, 8 4 3			3, 8 4 3
豚サルモネラ症	5 8 5			5 8 5
オーエスキー病	5, 9 1 3			5, 9 1 3
豚繁殖・呼吸器障害症候群	1, 8 2 0			1, 8 2 0
豚萎縮性鼻炎	8 5			8 5
豚流行性下痢	4 4 0			4 4 0
合 計	1 6, 6 4 4	0	0	1 6, 6 4 4

③鶏の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
鶏サルモネラ症	1 3, 3 0 0			1 3, 3 0 0
鳥インフルエンザ	2 9 4, 5 7 0			2 9 4, 5 7 0
伝染性気管支炎	3 0, 5 2 2			3 0, 5 2 2
マレック病	1 4, 5 0 5			1 4, 5 0 5
鶏マイコプラズマ病	2 2, 5 0 0			2 2, 5 0 0
ロイコチトゾーン病	2 2			2 2
鶏白血病	1 0			1 0
ニューカッスル病	8 8, 4 0 0			8 8, 4 0 0
合 計	4 6 3, 8 2 9	0	0	4 6 3, 8 2 9

④緬羊・山羊の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
口蹄疫	1 0 9	0	0	1 0 9

⑤あひるの伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
鳥インフルエンザ	4, 5 0 0			4, 5 0 0
ニューカッスル病	4 0 0			4 0 0
合 計	4, 9 0 0	0	0	4, 9 0 0

⑥蜜蜂の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査群数	患 畜	疑似患畜	健 康
バロア病	4			4
チョーク病	4 7 0			4 7 0
アカリндаニ病	4			4
合 計	4 7 8	0	0	4 7 8

⑦馬の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
馬インフルエンザ	6 0 8	0	0	6 0 8

(5) 証明書発行状況

①法第8条に基づき、下記のとおり検査証明書を発行した。

証明書の種類		畜種	発行件数
検査証明	馬伝染性貧血	馬	4, 162
	腐蛆病	蜜蜂	6

(6) 輸出入検疫対象家畜検査状況

輸入家畜の着地検疫検査および輸出予定家畜の飼養場所等における監視伝染病の発生状況の照会に対して回答を行った。

①着地検疫

実施期間	動物種	頭数	輸入先
H25. 4. 12 ~ H25. 5. 2	馬	3	アラブ首長国連邦
H25. 5. 28 ~ H25. 6. 17	馬	1	シンガポール
H25. 10. 23 ~ H25. 11. 15	馬	2	フランス
H25. 12. 17 ~ H26. 1. 7	馬	3	香港
H25. 3. 4 ~ H25. 4. 2	馬	1	フランス
H25. 3. 31 ~ (H26. 6. 30)	馬	1	イギリス

②輸出動物の飼養場所等における監視伝染病の発生状況回答

実施月	動物種	頭数	仕向国
8	馬	40	中華人民共和国（飼養場所）
8	馬	40	中華人民共和国（通過地）
8	馬	4	フランス
10	馬	1	アメリカ合衆国
1	馬	3	英国
1	馬	1	大韓民国
3	馬	2	アメリカ合衆国

2) 自衛防疫・自主管理強化総合対策

社団法人滋賀県畜産振興協会が自衛防疫業務を実施するにあたり、地域家畜自衛防疫推進協議会に対して、運営指導を行った。

(1) 地域家畜自衛防疫推進協議会

(平成26年3月31日現在)

地域推進協議会	事務局	事務担当年度	構成市町村名
高島市	家畜保健衛生所 北西部支所	平成6年度～	高島市

(2) 特定疾病損耗防止事業

社団法人滋賀県畜産振興協会が特定疾病損耗防止事業で予防注射を実施するにあたり、事業推進の指導・助言を行った。

		牛
地域	項目	牛異常産三種混合 生
大津市	計画	50
	実績	38
彦根市	計画	30
	実績	54
長浜市	計画	37
	実績	34
近江八幡市	計画	527
	実績	657
甲賀市	計画	392
	実績	567
高島市	計画	682
	実績	481
東近江市	計画	701
	実績	978
米原市	計画	31
	実績	24
日野町	計画	313
	実績	283
竜王町	計画	83
	実績	94
愛荘町	計画	45
	実績	78
豊郷町	計画	28
	実績	26
多賀町	計画	45
	実績	40
合計	計画	2,964
	実績	3,354
	計画比	113.2%

注) 牛異常産三種混合：アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症
生：生ワクチン

計画比は対当初計画 (%) 牛実績単位：頭

2 家畜検査事業

近年、様々な家畜伝染病の発生地域が世界的に拡大する一方で、畜産物の輸入自由化や国際交流の拡大などにより、新しい疾病の発生や長期間発生の無かった疾病の再発生などの機会が増大している。平成 22 年度には宮崎県での口蹄疫の発生や西日本を中心とした高病原性鳥インフルエンザの多発等により畜産関係のみならず多方面に様々な影響を及ぼす事態となった。このような急性伝染病については、まん延防止対策を迅速に実施するために、病性鑑定のための各種検査を迅速かつ的確に実施し、短時間で診断することが強く求められている。

また、輸入畜産物との競合や消費の低迷から、一層の低コスト生産が求められており、経営を安定させるためには、生産性を阻害する要因を除くことが重要な課題となっているが、最近の家畜疾病の発生状況は、生産病的慢性疾病が増加傾向にあり、こうした疾病への積極的な対応が要請されている。

家畜保健衛生所では県下畜産指導機関との連携を密に保ちながら、病性鑑定業務の技術向上を図り、検査材料について専門分野から精密検査を行い、総合的な疾病診断を実施している。

さらに、最近の消費者ニーズは、安全で健康的な畜産物にあり、生産者である畜産農家は、このニーズに適した付加価値を持つ畜産物の生産を心がけなければならないのが現状である。このような状況に対応するため、家畜検査センターでは、畜産物の品質向上および安全性に関する検査項目も加え、畜産農家の求めに応じられる家畜検査事業を推進している。

1) 病性鑑定実績

畜種	精密病性鑑定		精密検査・調査		合計	
	件数	頭羽群数	件数	頭羽群数	件数	頭羽群数
乳用牛	67	83	392	1,148	459	1,231
肉用牛	114	133	211	680	325	813
豚	13	17	29	108	42	125
家禽	15	100	71	594	86	694
馬	2	2	2	2	4	4
めん羊	3	3	7	7	10	10
山羊	5	5	8	8	13	13
蜜蜂	5	5			5	5
野鳥			17	521	17	521
その他	3	3	5	25	8	28
計	227	351	742	3,093	969	3,444

(1) 精密病性鑑定結果

①乳用牛

診断	件数	頭数
地方病性牛白血病	4	4
BVDV 持続感染牛の疑い	3	3
異常産 (BVDV 感染による流産)	1	1
異常産 (化膿性胎盤炎、流産)	1	1
異常産 (先天性奇形、非感染症)	4	5
異常産 (分娩事故、非感染症)	4	4
異常産 (原因不明、非感染症)	10	12
<i>Streptococcus bovis</i> 敗血症	3	3
悪性水腫	1	1
牛壊死性腸炎疑い	4	4
ロタウイルス病	4	6
牛コロナウイルス病	1	1
寄生虫による下痢	1	1
原因不明の下痢症	3	4
牛パストツレラ (マンヘミア) 症	2	2
牛RSウイルス病	1	1
牛呼吸器複合病	1	5
肺炎・呼吸器疾患	3	9
肺うっ血・肺水腫	1	1
疣贅性心内膜炎	1	1
急性乳房炎	2	2
急性腹膜炎	2	2
子宮内膜炎	1	1
腹腔内出血による失血死	1	1
肝炎	2	2
脂肪肝	1	1
腎盂腎炎	1	1
第四胃変位	1	1
放線菌症	1	1
死後変化強く不明	2	2
計	67	83

②肉用牛

診断	件数	頭数
地方病性牛白血病	2	2
異常産 (先天性奇形、非感染症)	4	4
異常産 (分娩事故、非感染症)	4	4
牛壊死性腸炎の疑い	13	13
急性鼓脹症	8	8
牛ロタウイルス病	6	7
ヒストフィルス・ソムニ感染症 (肺炎型)	3	3
乳頭糞線虫症の疑い	3	3
原因不明の下痢	3	7
牛RSウイルス病	2	5
牛パストツレラ (マンヘミア) 症	3	3
化膿性気管支肺炎、繊維索性肺炎	10	10
誤嚥性肺炎	4	4
肺うっ血・肺水腫	4	4
急性間質性肺炎	3	3
牛呼吸器複合病	5	12
マイコプラズマ中耳炎	1	1
疣贅性心内膜炎	1	1
化膿性腎炎	2	2
腎不全	1	1
第四胃潰瘍	3	3
敗血症	3	3
原因不明の口腔粘膜のびらん	4	8
尿石症	1	1
急死 (牛壊死性腸炎否定)	5	5
脂肪壊死症	2	2
急性腹膜炎	4	4
虚弱子牛 (感染症否定)	4	4
大動脈破裂	1	1
熱中症	1	1
事故 (頸部の挫傷)	1	1
循環不全の疑い	3	3
計	114	133

③豚

診断	件数	頭数
食塩中毒の疑い	1	2
豚エンテロウイルス性脳脊髄炎の疑い	1	1
豚大腸菌症	2	4
豚胸膜肺炎	3	3
豚呼吸器複合病	4	5
豚皮膚炎腎症症候群の疑い	1	1
多臓器不全	1	1
計	13	17

④家禽

診断	件数	羽数
マレック病	3	15
鶏パスツレラ症	2	9
鶏大腸菌症	1	15
鶏ブドウ球菌症	2	10
鶏封入体肝炎	1	5
卵巣・卵管発育不良(原因不明)	2	23
鶏コクシジウム症	1	6
鶏脳脊髄炎の疑い	1	14
ひな白痢否定	1	1
熱射病	1	2
計	15	100

⑤馬

診断	件数	頭数
慢性リンパ腫	1	1
結腸の絞扼	1	1
計	2	2

⑥めん羊

診断	件数	頭数
コクシウム症	1	1
循環不全	1	1
急性鼓脹症	1	1
計	3	3

⑦山羊

診断	件数	頭数
急性鼓脹症	1	1
誤嚥性肺炎	2	2
化膿性肺炎	1	1
腹腔内血管破裂	1	1
計	5	5

⑧蜜蜂

診断	件数	群数
アカリダニ症	2	2
死亡数増加(原因不明)	3	3
計	5	5

⑨その他

診断	件数	頭数
猫 切断された死体	3	3
計	3	3

(2) 精密検査・調査実施状況

①乳用牛

検査・調査	件数	頭数
BSE 検査	127	127
BVD-PCR 検査・中和抗体検査	26	165
診断予防技術向上対策 (BVDV)	7	57
アルボウイルス抗体調査(アカネ病)	36	113
アルボウイルス抗体調査(アイウイルス病)	36	113
アルボウイルス抗体調査(チュウサン病)	36	113
アルボウイルス抗体調査(イバラキ病)	36	113
アルボウイルス抗体調査(牛流行熱)	36	113
代謝検査	3	26
O157 検査	5	13
牛白血病 PCR 検査	9	30
牛白血病早期診断体制整備 (PCR 等)	2	50
ヨーネ病リアルタイム PCR 検査	4	26
カビ毒検査	1	3
ビタミン検査	1	16
飼料添加物残留検査	15	15
呼吸器病ウイルス抗体検査	1	15
乳房炎検査	6	35
分離細菌同定検査	4	4
牛床、敷料の細菌検査	1	1
計	392	1148

②肉用牛

検査・調査	件数	頭数
BSE 検査	78	78
BVD-PCR 検査・中和抗体検査	2	13
診断予防技術向上対策 (BVDV)	3	15
アルボウイルス抗体調査(アカネ病)	20	80
アルボウイルス抗体調査(アイウイルス病)	20	80
アルボウイルス抗体調査(チュウサン病)	20	80
アルボウイルス抗体調査(イバラキ病)	20	80
アルボウイルス抗体調査(牛流行熱)	20	80
代謝検査	9	53
ビタミン検査	3	46
呼吸器病ウイルス抗体検査	2	8
牛白血病 PCR 検査	2	12
牛白血病早期診断体制整備 (PCR 等)	1	15
ヨーネ病リアルタイム PCR 検査	1	5
鼻腔の呼吸器症関連菌検査	1	7
寄生虫卵検査	2	15
環境サルモネラ検査	1	1
薬剤耐性菌調査	6	12
計	211	680

③豚

検査・調査	件数	頭数
薬剤耐性菌調査	2	4
豚コレラ中和試験	1	6
オースキー病中和試験	2	2
PRRS-PCR 検査	2	67
豚コレラサーベイランス	13	17
豚インフルエンザサーベイランス	8	11
子宮蓄膿症原因菌検査	1	1
計	29	108

④家禽

検査・調査	件数	羽数
AIV モニタリング(ウイルス分離)	48	480
IB ウイルス分離検査	5	50
飼料添加物残留検査	12	52
薬剤耐性菌調査	6	12
計	71	594

⑤馬

検査・調査	件数	頭数
寄生虫卵検査	1	1
代謝検査	1	1
計	2	2

⑥めん羊

検査・調査	件数	頭数
伝達性海綿状脳症検査	7	7
計	7	7

⑦山羊

検査・調査	件数	頭数
伝達性海綿状脳症検査	8	8
計	8	8

⑧野鳥

検査・調査	件数	羽数
渡り鳥の AIV 調査	16	520
死亡野鳥の AIV 検査	1	1
計	17	521

⑨その他

検査・調査	件数	羽数
ハト AIV-PCR 検査	5	25
計	5	25

3 家畜衛生に関する事業

各種疾病による家畜の損耗防止と飼養衛生管理の改善による生産性の向上および家畜畜産物の安全性を確保するため、消費・安全対策交付金のうちの「家畜衛生の推進」を主体に各種事業を実施した。

1) 牛海綿状脳症（BSE）検査・清浄化推進

BSEの清浄性を確認するため、24ヵ月齢以上の死亡牛、生前にBSEを否定できない中枢神経症状等の臨床症状を呈した牛、その他BSE検査を行うことが必要と認める牛について検査を実施した。

205頭実施、すべて陰性

2) 監視・危機管理体制整備対策

飼養規模の拡大と流通の国際化の進展により、伝染病発生時の被害は甚大化することが予想される。正確な家畜衛生情報の収集・分析・発信により、自衛防疫の推進を図り、事前対応型の防疫体制の構築とまん延防止体制の確立を図るため、以下の事業を実施した。

(1) 家畜伝染病防疫対応強化

①飼養衛生管理基準・特定家畜伝染病防疫指針普及推進会議

家畜の所有者が飼養衛生管理基準を遵守することによる家畜の飼養衛生環境の向上と、特定家畜伝染病防疫指針に基づく家畜伝染病の発生予防およびまん延防止対策が迅速かつ的確に講じられる体制を構築するため、畜産農家、市町村、農業共済組合、農業協同組合、公衆衛生関係者等を対象に地域段階の取り組みを推進する地域推進会議を開催した。

開催回数 2回 出席者（延べ）158名

②飼養衛生管理基準・特定家畜伝染病防疫指針指導の推進、普及、強化

農家への立ち入りの際にあわせて飼養衛生管理基準および特定家畜伝染病防疫指針の普及・啓発などの衛生管理指導を実施した。

指導農家数（延べ） 343戸

(2) 家畜衛生関連情報の整備

①情報の収集

家畜衛生に関する情報を、病性鑑定時に行う聞き取り調査等により 227 戸から収集した。

②広報

家畜疾病の発生情報、調査検査結果、収集情報分析結果および新しい技術の紹介・普及等のための広報紙として、「家畜衛生情報」を発行するとともに、これらの情報は家畜保健衛生所ホームページに随時掲載した。

○家畜衛生情報

・口蹄疫関連

口蹄疫発生情報 3回

口蹄疫防疫対策研修会が開催されます 1回

・鳥インフルエンザ関連

高病原性鳥インフルエンザ情報 8回

・豚流行性下痢関連

豚流行性下痢発生情報 3回

・衛生関連

口蹄疫、鳥インフルエンザ等の防疫対策の徹底を 2回

飼養衛生管理基準研修会を開催します 1回

みつばち飼養者のみなさんへ農薬散布情報に注意しましょう 1回

死亡牛 B S E 検査情報 2回

家畜の所有者の定期報告書の提出について 1回

・疾病関連

ロイコチトゾーン対策はお済みですか？ 1回

韓国で豚コレラ発生 1回

日本脳炎の予防接種のシーズンです 1回

③防疫マップの整備

重大な監視伝染病の発生に対応する危機管理体制整備の一環として、農家等の情報を蓄積し、電子地図等にリンクさせて活用できる体制を整え、維持更新に努めた。

F A X 網整備

収集した農家情報に合わせ、一斉通報システムのデータ更新等の管理を実施した。

県境防疫会議

- ・平成 25 年 8 月 23 日、岐阜県大垣市において、隣接府県（福井県、岐阜県）の家畜保健衛生所と情報交換を行った。
- ・平成 25 年 9 月 26 日、三重県伊賀市において、隣接府県（三重県、京都府、大阪府、奈良県）の家畜保健衛生所と情報交換を行った。

(3) まん延防止円滑化対策

県内での高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫の発生を想定して、迅速かつ的確な防疫体制を確立するため、関係機関の職員等による連絡調整会議および防疫演習を実施した。

① 連絡調整会議等

開催年月日	検 討 ・ 協 議 事 項	場 所
H25. 5. 29	県防疫担当者会議	県庁
H25. 8. 17	県高病原性鳥インフルエンザ関係機関調整会議	県庁
H25. 11. 11	湖東地域家畜防疫対策会議（防疫演習）	湖東合同庁舎
H25. 11. 20	高島地域家畜防疫対策会議	高島合同庁舎
H25. 11. 28	東近江地域家畜防疫対策会議	東近江合同庁舎
H25. 12. 3	湖北地域家畜防疫対策会議	湖北合同庁舎
H25. 12. 11	甲賀地域家畜防疫対策会議	甲賀合同庁舎
H26. 2. 5	大津南部地域防疫対策会議	南部合同庁舎

②防疫演習等の実施

開催年月日	内 容	場 所
H25. 10. 8	高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会	コラボ滋賀
H25. 11. 7	大津南部地域高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会	南部合同庁舎
H25. 11. 19	高病原性鳥インフルエンザ全国一斉机上防疫演習	電子メール （畜産課、家保）
H25. 11. 20	口蹄疫防疫対策研修会	コラボ滋賀
H25. 11. 26	湖北地域高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会	湖北合同庁舎
H25. 12. 11	東近江地域高病原性鳥インフルエンザ防疫従事者研修会	東近江合同庁舎
H25. 12. 11	県庁高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会	県庁
H26. 1. 29	甲賀地域高病原性鳥インフルエンザ防疫演習	甲賀合同庁舎
H26. 2. 18	口蹄疫の全国一斉防疫演習	畜産技術振興センター 電子メール （畜産課、家保、畜産技術振興センター）
H26. 2. 24	大津南部高病原性鳥インフルエンザ防疫演習	南部合同庁舎

(4) 病性鑑定ネットワークの構築

高病原性鳥インフルエンザ等の重要家畜伝染病の検査、診断体制を強化するため、大学・研究施設等を含む病性鑑定施設のネットワーク化を図り、疾病発生時に適切な役割分担の下、迅速な病性鑑定が実施できるように意見・情報交換を行った。

○近畿ブロック病性鑑定ネットワーク協議会

平成25年6月24日～25日 奈良県家畜保健衛生所

平成25年7月 4日～ 5日 大阪府立大学

平成25年8月28日 大阪府立大学

3) 生産性向上対策

(1) 慢性疾病等生産性を阻害する疾病の低減

家畜の慢性疾病等の低減を図り、生産性を向上させるため、損耗の多い畜産経営体の生産性阻害状況および衛生状況を調査するとともに、改善のための技術指導を行った。

対象経営体	調査農家戸数	調査検査延頭羽数	調査検査疾病等
牛	1	50頭	牛ウイルス性下痢・粘膜病
牛	3	416頭	牛白血病
牛	2	120頭	繁殖障害
牛	1	1,530頭	呼吸器病
豚	1	1,200頭	大腸菌症
採卵鶏	1	8,000羽	産卵低下
肉用鶏	1	13,000羽	マレック病

4) 畜産物の安全性向上

高品質で安全な畜産物の供給を確保するため、生産段階での衛生管理の向上を目的とした農場HACCPの普及と衛生状況の検査による飼養衛生管理技術等の改善指導を行った。

また、食中毒原因菌をはじめとする人獣共通感染症の原因となる病原体等の浸潤状況や動態を調査し、その防除対策の確立に努めるとともに、動物用医薬品の適正な使用・管理について調査・指導を行った。

(1) 生産衛生管理体制整備

畜産農家への農場HACCPの円滑な導入と普及定着を図るため、滋賀県養鶏協会をモデル地域と位置づけ、統一的に取り組むことのできる危害因子の設定や衛生管理マニュアルおよび記録表の作成等について指導を行った。

また、牛ではモデル農家を選定し、農場HACCPの普及に努めた。

○モデル地域実施状況（採卵鶏、肉用鶏）

滋賀県養鶏協会加盟の養鶏農家の中から、サルモネラ対策に意欲的に取り組んでいる農家17戸を対象とし、サルモネラ・エンテリティディス（SE）と抗菌性物質の残留を危害因子とし、HACCP方式による衛生的な生産体制の推進を図った。

自農場の衛生管理を説明できるようマニュアルの改正を行うとともに、農家と記録の実施状況の確認や問題点の改善方法を協議し、今後の取り組み目標を検討・設定した。

○モデル農家実施状況（牛）

農場HACCP推進農場の指定を受けている肉用牛（肥育経営）1農場において、衛生管理方針の確認、HACCPチームの編成、作業工程の確認、飼養衛生管理の徹底と記録などを指導し、農場HACCP認証農場の認定取得に向けた取り組みを支援した。

(2) 鶏卵衛生管理体制整備

衛生的な鶏卵の生産体制整備を進めるため、サルモネラの侵入防止および汚染された場合に清浄化を図るための対策を地域ぐるみで検討実施した。

① サルモネラに関する調査・検査

生産者集団の実施する鶏群へのサルモネラ侵入防止対策の一環として、「鶏卵のサルモネラ総合対策指針」(平成17年1月26日付け第8441号農林水産省消費・安全局衛生管理課長通知)に基づき、鶏舎環境および素雛のサルモネラ検査を実施した。

種別	調査対象検体数（サルモネラ陽性検体数）						
	計	送付材料			巡回材料		
		鶏(糞等)	敷料	その他	周辺環境		
		導入時	導入時		鶏舎 (通路・糞上)	集卵室	除糞機材
種鶏	80 (3)	0 (0)	46 (0)	0 (0)	27 (2)	5 (1)	2 (0)
採卵鶏	1,076 (18)	295 (5)	290 (0)	40 (0)	300 (7)	62 (1)	89 (5)

(3) 動物用医薬品危機管理対策

適正な動物用医薬品の流通、使用を確保するため販売業者の在庫薬品について表示、品質検査を行い、家畜飼養者について医薬品の使用実態調査を実施した。

また、薬剤耐性菌の発現状況調査を行い、抗菌剤等の適正使用を指導した。

① 品質検査実施成績

本年度の検査対象品目は、合成抗菌剤であった。

製剤名	製造番号	製造販売業者	検査項目	定量値	規格値	収去場所
ビタフラル D3-1000	1304111	共立製薬 株式会社	コレカルフェロール量 性状 表示	100.2% 規格ど おり	90~120% 淡黄色透明	滋賀県 東近江市

② 薬剤耐性菌の発現状況調査

全国技術検討会の取り決めにに基づき、平成 25 年度は大腸菌・腸球菌を分離して薬剤耐性の発現状況を調査した。

大腸菌・腸球菌検査結果・概要

	検査検体数	菌分離陽性検体数	分離株数
肉用牛	6	6	12
肥育豚	2	2	4
採卵鶏	4	3	6
肉用鶏	2	2	4
合計	14	13	26

(4) 飼料安全性・品質改善対策

安全な畜産物の生産を確保するため、肉牛、乳牛、豚、鶏飼養農家における飼料の使用状況の調査を行うとともに適正使用の指導を行った。

飼料添加物残留検査成績は、調査検体全例陰性で、使用状況も適正であった。

実施地域	採卵鶏			肉用鶏			乳用牛			肉用牛	豚
	巡回戸数	残留検査		巡回戸数	残留検査		巡回戸数	残留検査		巡回戸数	巡回戸数
		検査戸数	陽性		検査戸数	陽性		検査戸数	陽性		
			サルファ剤			サルファ剤			TC		
大津地域	4	1		2			3	1	0	2	1
湖南地域	9	0	0	1			0			4	
甲賀地域	7	0	0	3			11			7	
東近江地域	18	6	0	5	1	0	39	8	0	74	5
湖東地域	1	0					7	2	0	4	
湖北地域	5	2	0	2			2	1	0	5	
高島地域	4	1	0	3			6	2	0	8	1
合計	48	10	0	16	1	0	68	15	0	104	7

TC:テトラサイクリン OTC:オキシテトラサイクリン

サルファ剤:ナイカルバジン、スルファキノキサリン

4 動物薬事

薬事法（昭和35年法律第145号）に基づき、動物用医薬品の適正な製造または販売について監視を行うとともに、動物用医薬品販売業許可申請等の事務処理・立入を行った。動物用医療機器の適正な製造または販売、賃貸、修理業についても同法に基づき監視を行うとともに、許可申請等の事務処理・立入を行った。

また、薬事法第69条第2項に基づき、動物用医薬品等の製造業者、製造販売業者、販売業者、医療機器販売・賃貸および修理業者の立入検査を実施した。

1) 申請・届出等の状況

(1) 市町別業者数

(平成26年3月31日現在)

市町名	製造業・ 製造販売業			医薬品販売業			医療機器販売 ・賃貸業		医療 機器 修理業
	医薬品	医薬 部外品	医療 機器	店舗	卸売	特例	高度 管理	管理	
大津市				2		14	2	2	1
彦根市				1		6			
長浜市						6			
近江八幡市					1	7			
草津市					1	3		2	2
守山市					1	3		2	2
栗東市				1	5	2	2	5	
甲賀市	3	2	3		5	10		4	1
野洲市						2	1		
湖南市						2			
高島市						9			
東近江市				1		7		1	
米原市						1			
日野町						2			
竜王町						1			
愛荘町						3			
豊郷町						2			
多賀町						1			
計	3	2	3	5	13	81	5	16	6

(2) 申請・届出の事務処理状況

申請・届出の種類	件数						
	製造業・ 製造 販売業	店 舗 販売業	卸売 販売業	特例 店舗 販売業	登録 販売者	高度 管理	管理
許可申請	1		2	4	—		2
許可更新申請	3		4	7	—		—
許可証書換え交付申請			7		—		—
許可証再交付申請					—		—
許可(届出)関係事項変更届	6	1	24	8	—	1	14
指定品目追加申請	—	—	—	2	—	—	—
休廃止届	0	1	1	3	—		3
販売従事登録申請	—	—	—	—	2	—	—

2) 薬事監視強化事業

(1) 立入検査状況

	製造業・製造販売業			販売業			薬局 (動物 用医薬 品取扱 店舗)	医療機器 販売・賃貸業		修理業
	医薬品	医 薬 部外品	医療 機器	店舗	卸売	特例 店舗		高度 管理	管理	
立入検査 対象箇所	2	2	3	5	13	81	8	5	16	6
立入検査 実施箇所	4	2	4	0	10	11	0	0	10	0

5 獣医事

獣医師法（昭和24年法律第186号）および獣医療法（平成4年法律第46号）に基づく届出等の事務処理および飼育動物診療施設の立入検査により管理獣医師等に対する指導を実施した。

1) 届出状況

(1) 飼育動物診療施設

（平成26年3月31日現在）

市町名	施設数		
	産業動物	小動物	計
大津市	2 (0)	28 (25)	30 (25)
彦根市	1 (1)	10 (9)	11 (10)
長浜市	1 (1)	6 (5)	7 (6)
近江八幡市	4 (0)	5 (5)	9 (5)
草津市	2 (1)	14 (11)	16 (12)
守山市		9 (8)	9 (8)
栗東市	14 (10)	4 (3)	18 (13)
甲賀市	5 (4)	6 (5)	11 (9)
野洲市		4 (3)	4 (3)
湖南市	1 (0)	5 (4)	6 (4)
高島市	2 (0)	4 (4)	6 (4)
東近江市	3 (1)	3 (3)	6 (4)
米原市		1 (1)	1 (1)
日野町	3 (0)	1 (1)	4 (1)
計	38 (18)	100 (87)	138 (105)

() 内は、X線装置保有施設数

(2) 事務処理状況

事務処理	件数
飼育動物診療施設開設届	15
飼育動物診療施設休止届	0
飼育動物診療施設廃止届	8
飼育動物診療施設届出事項の変更届	36
エックス線に関する届出	
エックス線装置新規設置	0
エックス線装置更新	1
エックス線装置廃止	0

2) 立入検査状況

獣医療法第8条に基づき、飼育動物診療施設の立入検査を実施した。

定期の立入検査	0 件
飼育動物診療施設開設時における立入検査	15 件
エックス線装置の取扱いに係る立入検査	1 件
獣医療法第17条広告の制限に係る立入検査	0 件
薬事法第48条毒薬・劇薬の取扱いに係る立入検査	0 件

6 家畜改良増殖事業

1) 家畜人工授精に関する業務

家畜改良増殖法に基づく家畜人工授精師、家畜人工授精所の許可申請等の事務処理を行った。

(1) 家畜人工授精師免許関係事務

家畜人工授精師免許申請	1	件
家畜人工授精師免許書換交付申請	0	件
家畜人工授精師免許再交付申請	1	件

(2) 家畜人工授精所開設等届出

家畜人工授精所開設許可申請	0	件
---------------	---	---

III 参 考 资 料

(参 考)

1 学会・業績等の発表

学会・場所・期間等	演 題	発 表 者
第 5 4 回 全 国 家 畜 保 健 衛 生 業 績 発 表 会 東 京 都 日 比 谷 公 会 堂 平 成 2 5 年 4 月 2 5、2 6 日	若 齢 黒 毛 和 種 肥 育 牛 に 見 ら れ た 牛 白 血 病	森 川 武 司
平 成 2 5 年 度 日 本 産 業 動 物 獣 医 学 会 (近 畿) 大 阪 府 堺 市 大 阪 府 立 大 学 中 百 舌 鳥 キ ャ ン パ ス 平 成 2 5 年 9 月 1 日	牛 壊 死 性 腸 炎 の 検 査 に お け る real-time multiplex PCR の 有 用 性 の 検 討	諸 岡 剛 俊
平 成 2 5 年 度 滋 賀 県 家 畜 保 健 衛 生 業 績 発 表 会 近 江 八 幡 市 県 立 男 女 共 同 参 画 セ ン タ ー 平 成 2 6 年 1 月 2 1 日	県 内 家 畜 飼 養 農 家 の 飼 養 衛 生 管 理 基 準 の 遵 守 状 況 と 指 導 効 果 大 規 模 肉 用 牛 肥 育 農 家 に 対 す る 関 係 団 体 と 連 携 し た 総 合 的 指 導 大 規 模 農 家 に お け る 哺 育 育 成 時 期 の 呼 吸 器 病 対 策 牛 白 血 病 抗 体 浸 潤 状 況 と 抗 体 陽 性 牛 の リ ス ク 評 価 牛 白 血 病 清 浄 化 に 向 け た 取 り 組 み 本 県 に お け る 肉 用 牛 飼 養 農 家 の 牛 白 血 病 対 策 一 養 豚 場 に お け る 母 豚 群 の P R R S 免 疫 安 定 化 に 向 け た 取 り 組 み 県 内 で 発 生 し た 豚 大 腸 菌 症 新 生 子 牛 の 牛 コ ロ ナ ウ イ ル ス 病 の 一 症 例 県 内 で 発 生 し た 牛 ロ タ ウ イ ル ス 病	加 藤 真 由 子 森 川 武 司 山 中 美 佳 宮 坂 光 徳 小 畑 敦 俊 浅 井 素 子 藤 井 賢 一 三 松 美 智 子 平 澤 康 伸 内 本 智 子

<p>第55回近畿ブロック家畜 保健衛生業績発表会 京都府 ホテルルビノ京都堀川 平成26年2月14日</p>	<p>大規模肉用牛肥育農家に対する関係団体 と連携した総合的指導</p> <p>滋賀県における肉用牛飼養農家の牛白血 病対策</p> <p>滋賀県内で発生した牛ロタウイルス病</p>	<p>森川 武司</p> <p>浅井 素子</p> <p>内本 智子</p>
<p>第19回滋賀県獣医学会 草津市 クサツエストピアホテル 平成26年2月11日</p>	<p>牛白血病清浄化に向けた取り組み</p>	<p>小畑 敦俊</p>

2 講習会等受講状況

1) 家畜衛生講習会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
基本講習会	小畑 敦俊	動物衛生研究所	H25. 5.15～H25. 5.31
総合講習	渡辺 千春	〃	H25.10. 9～H25.10.11
牛疾病	山中 美佳	〃	H25. 6.18～H25. 6.28
海外悪性伝染病	藤井 賢一	〃	H25. 9.11～H25. 9.13
鶏疾病	加藤 真由子	〃	H25. 9.24～H25.10. 4

2) 家畜衛生研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
病理	平澤 康伸	動物衛生研究所	H25.10.15～H25.10.18
細菌	三松 美智子	〃	H25.10.22～H25.10.25
ウイルス	内本 智子	〃	H25.10.29～H25.11. 1

3) 動物用医薬品危機管理対策研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
薬剤耐性菌の発現状況検査	三松 美智子	動物医薬品検査所	H25. 6. 5～H25. 6. 7
品質確保検査	富澤 泰	〃	H25. 7. 3～H25. 7. 5

4) 中央畜産技術研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
肉用牛	浅井 素子	家畜改良センター	H25. 9.30～H25.10. 3

5) その他

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
農場 HACCP に係る農場 指導員養成研修	森川 武司	全国家電会館	H25. 7.10～H25. 7.12
農場 HACCP に係る農場 審査員養成研修	森川 武司	〃	H25.11. 5～H25.11. 7

3 家畜衛生関係手数料

(平成26年3月31日現在)

区分	項目	単位	金額	備考	
証明書	注射、投薬、薬浴および検査 証明書交付手数料	1 件 につき	720	牛、豚、馬	
	証明手帳に記入して証明する 場合		320	〃	
	シンガポールへの牛肉輸出に係る 牛の出生国および飼育国に関する 証明書交付手数料	1 通 につき	350	牛	
	頭数当たり	1 頭 につき	10	〃	
家畜 投薬 ・ 注射 および 薬浴 手数料	牛	炭疽予防注射	1 頭 1 回	290	流行熱予防液使用 イハ ^レ キ病予防液使用
		気腫疽予防注射	につき	450	
		流行性感冒予防注射		400	
		〃		400	
		伝染性鼻気管炎予防注射		570	
		アカバネ病予防注射		1,050	
	馬	流行性脳炎予防注射	1 頭 1 回	520	
		炭疽予防注射	につき	290	
	豚	豚コレラ予防注射	1 頭 1 回	200	
		豚丹毒予防注射	につき	200	
		流行性脳炎予防注射		510	
	鶏	ニューカッスル病予防注射	1 羽 1 回	10	不活化ワクチン使用
		〃	につき	5	生ワクチン使用
	家畜 検査 手数料	牛	結核病検査	1 頭 1 回	270
		ブルセラ病検査	につき	270	〃
		ヨーネ病検査		670	〃
		トリコモナス検査		250	
		肝てつ検査		240	
		牛海綿状脳症検査		4,500	
馬		馬伝染性貧血検査	1 頭 1 回 につき	1,300	
鶏		ひな白痢検査	1 羽 1 回 につき	40	
蜜蜂		腐蛆病検査	1 蜂群 につき	60	

区分	項目	単位	金額	備考
家畜人工授精	家畜人工授精所開設許可	1 件	5,700	
	家畜人工授精師免許申請	につき	1,900	
	家畜人工授精師免許証 書換え交付手数料		1,700	
	再交付手数料		1,700	
動物薬事	動物用医薬品販売業			
	許可申請手数料		28,600	
	許可更新申請手数料		10,600	
	許可証書換交付手数料		2,100	
	許可証再交付手数料		3,100	
	動物用高度管理医療機器等販売・ 賃貸業			
	許可申請手数料		29,000	
	許可更新手数料		11,000	
動物用医薬品販売従事者登録				
登録申請手数料		7,100		

4 家畜飼養状況（平成26年2月1日現在）の概要

畜種	飼養戸数 (戸)	飼養頭羽数 (頭・羽)	一戸当たり 飼養頭羽数 (頭・羽/戸)	対前年比				
				飼養戸数 上段:増減比% 下段:増減実数	飼養頭羽数 上段:増減比% 下段:増減実数	一戸当たり 飼養頭羽数 上段:増減比% 下段:増減実数		
乳用牛	68	3,536	52.0	95.8 △ 3	97.7 △ 82	102.0 + 1.0		
肉用牛	計	114	17,710	155.4	104.6 + 5	99.3 △ 126	95.0 △ 8.2	
	肥育牛	和牛 (4ヶ月以上の育成牛を含む)	94	11,684	124.3	109.3 + 8	98.2 △ 220	89.8 △ 14.1
		肉向乳牛	12	766	63.8	85.7 △ 2	97.7 △ 18	113.9 + 7.8
		F 1	28	3,643	130.1	90.3 △ 3	101.8 + 66	112.7 + 14.7
		子牛 (4ヶ月未満)	37	500	13.5	97.4 △ 1	104.4 + 21	107.1 + 0.9
	繁殖牛 (繁殖目的に飼育している育成牛、子牛を含む)	43	1,117	26.0	113.2 + 5	102.3 + 25	90.6 △ 2.7	
豚	計	10	8,213	821.3	111.1 + 1	109.7 + 728	98.7 △ 10.4	
	肉豚 (3ヶ月未満の子豚を含む)	8	7,527	940.9	114.3 + 1	111.0 + 746	97.1 △ 27.8	
	繁殖豚	5	686	137.2	100.0 ± 0	97.4 △ 18	97.4 △ 3.6	
採卵鶏 (100羽未満を含まない)	45	418,118	9,291.5	91.8 △ 4	90.0 △ 46,378	98.0 △ 118.0		
肉用鶏 (100羽未満を含まない)	10	75,650	7,565.0	100.0 ± 0	65.2 △ 40,346	65.2 △ 4,034.6		

